

山岳遭難の状況と防止対策について

- R4年の山岳遭難は、発生件数、遭難者数ともにコロナ禍以降最多となった。（284件、310人）
- 特に遭難の多い北アルプスでは、長野県山岳遭難防止対策協会（会長 知事）からガイドなど民間人が委嘱を受け夏・秋山シーズンに常駐し、現場の最前線でパトロールを実施（長野県独自の取組）
- R5年の遭難件数は前年同期を上回っており、常駐隊としても登山者への声かけや情報発信を強化していきたい。

山小屋が担う公益的機能について

県内には約130軒の山小屋が存在

- 【環境】 登山道の維持・災害復旧、し尿処理
- 【救助】 県警や山岳遭難防止常駐隊と連携した遭難救助活動
- 【安全】 登山者相談指導、悪天候時緊急避難

登山者が安全安心に登山ができるよう、山岳の自然を守り、登山道の維持や遭難者の捜索・救助を最前線で担い支えているのが、山小屋です